

# 地域がつながる！ 伝統の秋祭り

近年、地域のつながりの希薄化が進んでいるといわれていますが、市内には活気ある地域を作ろうと活動している人がたくさんいます。

今回の特集では、秋に行われる地域の秋祭りを取材しました。地域一丸となった祭りをするため、各地区工夫を凝らしている姿が見られました。また、丹南地区・河合地区の代表者にお話を伺いました。

※市広報担当が把握している範囲で取材を行いましたので、掲載漏れの地域などがある場合もあるかとは思いますが、ご了承ください。

▼問合せ 秘書広報課 ☎334-1550 代表



柴籬



我堂



小川



更池



大堀

各地区の動画を市ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。

※他にも大堀地区は布団太鼓1台・御神輿2台の巡行、河合地区は地車1台・太鼓台1台、柴籬地区は地車1台・我堂地区は地車を2台曳行しています。

◎市では、だんじり・みこし・太鼓の修繕に対して補助をする制度があります。詳細は21ページをご覧ください。



丹南

丹南秋祭りだんじり保存会 会長 山本さん

祭の始まりは昭和54年、子どもたちに喜んでもらおうと数人で手作りの地車を曳いたのが始まりで、その後町会で地車を購入し現在に至ります。だんじりを曳いて育った子どもが、大人になったときに、地域に恩返しをしたいと思えるような行事になれば…と続けてきました。

現在少子化が進行し、丹南地区でも子どもの数は減少傾向にあるが、近隣の新興住宅地に住む子ども達も一緒になって、町会の枠を超えた地域で楽しめる祭を目指しています。祭当日は幼児から子どもまで200人以上の曳き手が地域を練り歩きます。曳き手は子どもが中心ですが、中学生も活動できる居場所を作ろうと3年前に「丹南tetsudai隊」を結成しました。運営のサポート役として、子どもたちの太鼓の練習や出店をするなど活動しています。「地域活動に参加できることが嬉しい」と話す子どももいるくらい楽しく活動できています。

近年地域の希薄化が進んでいるといわれていますが、横の世代のつながり、また世代を超えた縦のつながりを残していきたいです。



河合

河合地車保存会 会長 神田さん

河合のだんじり祭の歴史は、昭和60年に地車を購入したところから始まります。現在メインで曳いているだんじりは、5年前に泉大津から購入したもので、地域一丸となった「河合の祭り」を目指して努力しています。大きなだんじりを曳く姿は迫力があるが、その分危険とも隣り合わせです。この祭りを作っていくには、まずは組織づくり。警備・曳行・総務・まかない・出店などさまざまな役割があり、各年代ごと役割分担をきちんと行っています。

曳行の主体は地車保存会と青年団・少年団。だんじりをつかっこよく曳きまわすために、走り込みにも力を入れています。地車曳行の主体となる青年団たちには地車を曳くことで、感動や達成感を味わってほしい。今は伝統を作っている段階だと思えます。地域のつながりが薄くなっているといわれる時代ですが、だんじりを通じて、みんなの顔がわかるような地域を作っていきたい。10年先になるのか50年先になるのかわからないが、村おこしのために頑張っていきたいです。



▲大勢の子どもたちでゆっくり練り歩く



▲丹南tetsudai隊の皆さん



▲鳴り物練習の様子



▲力いっぱい走る！



▲走り込みの様子



▲鳴り物練習の様子